

醍醐病院 新任Dr.紹介



どうどう リゅういちろう
藤堂 龍一郎 医師



出身地と地元のいいところや思い出は？

京都市。こぢんまりとしていて過ごしやすいいところだと思います。

なぜ精神科医になりましたか？

研修医のときに一番疑問が多く残る科だったので。

患者さんへのメッセージ

質問でも雑談でもお気軽にどうぞ。

一緒に働くスタッフへのメッセージ

気軽に話しかけていただければと思います。

藤堂医師に一問一答！

Q 人生の目標
穏やかに過ごすこと。興味があること、楽しいことを見つけながら生活すること。

Q 休日の過ごし方
息子と公園に行ったり家族で買い物に行ったり。

Q 好きな言葉
特にありません。

Q ズバリ!私はこんな人
マイペース

Q ストレス解消方法
ストレスはたまりません。

Q 好きなファッションブランドはなんですか？
特にありません。

Q こだわっているもの
特にありません。

Q お酒は飲みますか？ 何が好きですか？
ビール。変わった地ビールを飲んでみるのが好きです。

Q 好きな人のタイプ
優しい人。

Q 趣味
ピアノ、ベース、バンド。スポーツ観戦。何か調べること。

Q 幸せを感じる瞬間はどんなときですか？
多くの選択肢を感じられるとき。

私の好きなもの

1 病棟 三原みずき

「ハンバーガー」

今回リレーコラムを伝えられた時に、人に見える好きなものを考えて浮かんだのがハンバーガーです。ハンバーガーといったらすぐに思い浮かぶのがマクドナルドなどのチェーン店が多いのではないのでしょうか。もちろんチェーン店のハンバーガーも好きですが、今回はチェーン店ではないハンバーガーショップについて書かせていただきます。

社会人になって初めてハンバーガーに興味を持ち、御所の近くにある「GRAND BURGER」という店に行ったのがキッカケです。

パンズの表面がカリッとし、断面も少し焼かれています。香ばしさがあり、そこから野菜の食感、お肉も肉肉しい感じではなく、ふんわりとしたパティとの相性がよく、ソースを使用していないシンプルな味付けなのに、その美味しさで衝撃を受けたのを覚えています。

そこから店独自のアレンジ美味しさにはまり、京都府内でハンバーガー店巡りを始めました。

今回、皆さんにもぜひ興味を持っていただきたいので、さらに2店舗を紹介させていただきます。

●**亀岡にある「京都ダイコクバーガー」**
こちらのオススメはWチーズバーガーです。

スライスチーズとカマンベールの2種類を使ったチーズバーガーですが、カマンベールチーズをピースで使用しており、厚みがあるため重そうな見た目ですが意外にあっさりしており、そのギャップに驚かされます。

オススメはチーズと書きましたが他にもいろんな種類があり、食べ比べセットとして小さなハンバーガーを2個選べるセットもあるのでこちらもおススメです。



●**四条にある「Y's BURGER(ワイズバーガー)」**
こちらはハンバーグで有名な「グリルデミ」が手がけるハンバーガー店です。ハンバーグ屋が起点ということもあり、お肉・ソースが美味しく、変わり種のチーズタンシチューバーガーは柔らかく溶けるような牛タンとデミグラスソース、パンズの相性がとてもよく、食べていただきたい一品です。



紹介は以上になります。今回、私の好きなハンバーガーについて語らせていただきましたが、私もまだまだ行ってない知らない店もあるので、もしおすすめのお店があったらぜひ教えてください。

リレーコラム Column

●編集委員：岸 恵、戸石 園美、藤木 不二人、松坂 竜也、古賀 良一、金子 泰三

医療法人(財団) 桜花会
醍醐病院

〒601-1433 京都市伏見区石田大山町7-2
TEL : 075-571-0030
https://www.daigo-hp.or.jp/



さくら通信



特集 学生実習指導

INDEX

- 2 | 新看護部長 就任のごあいさつ
- 3 | 新任Dr.紹介
- 4.5 | 看護学生の实習指導 相談支援室
- 6 | リレーコラム

新看護部長

就任の
ごあいさつ

看護部長

みよし ふみよ
三好 二三代

※周りは各病棟の師長

2022年6月21日より看護部長に就任いたしました、三好二三代と申します。遅くなりましたがこの場を借りて皆さまにごあいさつ申し上げます。

ご多分に漏れず、当院も2022年はコロナに振り回された一年となりました。最前線で日々奮闘する現場をはじめ、周りからのバックアップによって、ひとつひとつをやったの思いで乗り越えてこられたように思います。

私は高校卒業と同時に醜態病院に就職したため他の職場のことを知りません。当院での看護がすべてなので「もしかしらすごく偏っているのかも?」と思うこともあります。新人の頃は、上司や先輩について回って、見てマネをして、少し成長したら自分のやり方をプラスして…。そうやって経験を重ね看護とは何かを身につけてきました。

醜態病院を離れた元同僚から当院で行う看護のすばらしさを逆に力説されたことがありました。私たちが普通に行っていることは、すばらしいと言われてることなんだと妙に誇らしい気分になったことを覚えています。

患者さんのところに行って話を聞くこと、一緒に時間を過ごすこと、患者さんが抱える困りごとを教えてもらって一緒に悩むこと、少しの変化に気づくこと、昨日怒られても懲りずに今日も行くこと、ひとつひとつの積み重ねで時間をかけて関係性が生まれること。

【時間があったら患者さんのところへ】

当院では、ベッドサイドケアを大切にしています。上司や先輩から代々受け継がれてきたこの言葉をスタッフ各人が理解し、自分の個性を大切にしながら良いところを最大限に発揮し、看護に取り組むことができるように支えていきたいと思っています。

当院でも高齢の患者さんや認知症の患者さんが増えてきています。今後は、もっと増えることでしょうか。たしかに、看護する上では大変なことも多くなりますが、そのような患者さんをひとくりにするのではなく、病名の違いや患者さんおひとりずつの違いに関心を寄せ、看護の工夫によって皆さんが安心して過ごすことができるようスタッフ全員で取り組んでいき、その中で感じる喜びを小さくとも一緒に分かち合っていければと思います。そのためには日々の学びも必要ですし、一緒に分かち合える仲間も大切です。人と人とのつながりを大切に、明るく風通しの良い職場環境をみんなで作っていかれたらと思います。

これからも、よりよい医療を提供できるように、看護部として力を尽くしていきたいと考えています。ご支援ご協力をお願いいたします。

看護学生の実習指導

相談支援室

相談支援室では、令和1年に看護大学生、令和2年には専門学校生を受け入れて精神科在宅支援領域としての訪問看護実習を開始しました。現在は新型コロナウイルス感染症対策などのため中断していますが、再開にあたっては「入院治療・看護のみならず地域包括ケアでの看護実践もできる人材育成」という養成機関からの期待に応えていきたいと考えています。

学生さんの実習現場は、当院外来や通所施設を利用しながら地域で生活する方々の自宅が中心です。訪問看護の頻度は利用者さんのニーズや介入度によってさまざまであり、学生さんが利用者さんと顔を合わせられる機会は限られています。実習指導にあたっては、病棟実習と同様に精神科へのイメージや目指す看護師像を知り、少なくとも不安感の軽減に努め、自宅訪問の機会を有意義に迎えてもらうことを大切にしています。コロナ禍にあって施設実習そのものが貴重な時期でもあり、また私たちに緊張している学生さんが多いのも事実なので(イメージを崩し過ぎないよう絶妙に)緊張を解きほぐすことも大切な役割と考えています。

まず、学生さんには移動する車中で利用者さんの病状、訪問看護を利用するに至った経緯などを伝えます。訪問先の自宅では看護師や精神保健福祉士の日々の対応の様子をモデルとして見てもらいます。学生さんは利用者さんの病状に悪影響を及ぼさないかという気持ちもあり、接し方に悩み声掛けに躊躇する人が少なくありません。

あいさつから緊張の色が見えることもあるので、血圧測定などを介しながらコミュニケーションの輪に加わってもらっています。睡眠や食事、排泄状況などは大切な観察項目ですが、日々の生活を聞き取りながらさりげなく病状や服薬状況を確認していきます。この様子を通じて「コミュニケーションは目的ではなく、精神科看護における観察や評価をする手段である」の意味を学び取ってもらおう機会としています。

また在宅看護の特徴である「生活者目線を持つことの大切さ」も伝えるように心掛けています。精神疾患のある方々に不安感を抱いていると、精神疾患による症状や対応に視点が傾きがちです。学生さんは実習を通じて「同じように生活する人々にとって精神疾患はどのような部分に影響を及ぼしているのか」という視点に変化していきます。この気づきから、相談できる相手と関係を育んでいく過程が利用者さんの日常支援の基盤となることを学んでもらえるようにしています。

平成末期には、精神科における地域包括ケアシステム構築が提唱され、今後は入院病床の維持や削減が進むことになり。看護師が活躍する場も地域からのニーズに応じてさらに広がるものとも考えています。利用者さんが地域で安心して過ごせるように、また私たち自身も地域における支援の担い手となり得る新しい看護師養成の一翼を担うべく準備していきたいと考えています。

訪問看護実習を終えた学生さんの
振り返りの声を紹介します

住み慣れた地域で自分らしく生活する姿を支える多職種連携の大切さを学ぶことができた。



精神疾患を抱え社会的孤立、社会的苦痛を感じるに至った過程を知り、それでも一生涯懸命に生活を送る姿に接して、看護師としてもっと力になりたいと思った。



対象者の話や態度を積極的に傾聴し、寄り添う姿勢や積み重ねが信頼関係の構築につながり、この過程がケアそのものであることを学べた。



看護師は対象者の健康状態、服薬状況、症状出現の程度を観察するとともに、訪問の席が苦痛を吐き出せる場となったり、日常生活にどのような援助が必要かアセスメントし、同行する精神保健福祉士をはじめとした多職種と連携しながらチームで支えることが大切と学べた。



対象者の希望を引き出し、客観的に整理し、その人らしい人生が送れるように『できる』『できない』ではなく、どのようにしたら実現できるかを一緒に考えて実践することが大切だと学んだ。

